

資料 - 4 濁り発生原単位現地調査について(現地調査結果の概要)

(「5.濁り発生量の算定」関連)

平成 13～15 年度に実施された濁り発生原単位調査の概要を表 4-1 に示す。

表 4-1 平成 13～15 年度に実施された濁り発生原単位調査の概要

工種	使用船舶	対象海域	年度	規模	水深 (m)	流速 (cm/s)	取り扱い土 砂の性状 (%)	出典	
浚渫工	ポンプ浚渫船	小名浜港	13 年度	4,413kW	13.6	8.2	48.0	13	
		直江津港	13 年度	4,413kW	12.0	3.7	28	14	
		北九州港	13 年度	5,884kW	17.7	10.5	26.6	12	
		博多港	13 年度	6,767kW	10.2	6.8	99.6	11	
		中津港	13 年度	5,884kW	10.8	8.7	90.6	-	
		北九州港	14 年度	6,987kW	14.2	10.0	97.5	32	
		酒田港	15 年度	4,413kW	10.9	3.3	22.5	33	
		石狩湾新港	15 年度	5,884kW	12.7	12.8	24.3	34	
	グラブ浚渫	苫小牧港	13 年度	18m ³	7.2	4.8	7.1	20	
		釧路港	13 年度	23m ³	15.6	23.3	6.9	17	
		紋別港	13 年度	15m ³	13.4	3.9	7.2	22	
		留萌港	13 年度	11.5m ³	10.9	7.3	25.6	23	
		三河港	13 年度	6m ³	9.0	12.8	90	26	
		神戸港	13 年度	15m ³	16.2	17.5	70.2	21	
		舞鶴港	13 年度	18m ³	13.7	5.4	97	18	
		水島港	13 年度	30m ³	9.7	6.4	96	15	
		北九州港	13 年度	12m ³	17.1	8.9	16.2	12	
		博多港	13 年度	18m ³	15.2	8.4	84.8	11	
		熊本港	13 年度	10m ³	5.6	10.3	87.2	24	
		八代港	13 年度	18m ³	12.9	36.3	96.6	19	
		別府港	13 年度	8m ³	9.9	5.4	21.7	25	
		中津港	13 年度	10m ³	10.0	6.2	25.3	-	
		那覇港	13 年度	30m ³	13.1	7.7	38.5	16	
		平良港	13 年度	4m ³	10.0	12.0	11.3	28	
		石垣港	13 年度	5m ³	5.6	6.8	22.6	27	
		新潟港	15 年度	13m ³	7.0	19.3	97	35	
		北九州港	15 年度	25m ³	17.4	8.8	85.6	36	
		鹿島港	15 年度	16m ³	13.4	5.8	15.9	40	
		秋田港	15 年度	8m ³	13.4	14.8	63.1	41	
		稚内港	15 年度	20m ³	8.2	5.4	11.8	42	
関門航路	15 年度	27.5 m ³	11.7	36.1	13.5	47			
土砂投入工	土運船	釧路港	13 年度	691m ³ (1,00m ³ 土運船)	14.6	10.8	6.9	17	
		三河港	14 年度	3,000m ³	8.2	9.3	1.1	31	
	グラブ船	岩国港	15 年度	3.3m ³	16.3	6.2	2.2	37	
		苅田港	15 年度	3.0m ³	9.5	5.8	19.3	43	
	砂撒き船 (パーミアンローダ船)	三河港	14 年度	600m ³ /h	5.4	8.0	7.3	31	
	土砂投入工 (捨石工)	グラブ船	八戸港	15 年度	4m ³	13.4	7.4	36	38
			岩国港	15 年度	3.3m ³	17.7	5.5	13.9	37
宇野港			15 年度	5m ³	16.0	12.1	7	39	
底開式パー ジ船		小名浜港	15 年度	180m ³	26.1	12.0	36.0	46	
SCP 工		福山港	13 年度	3 連装	9.6	5.7	43.2	29	
		須崎港	13 年度	3 連装	18.4	5.5	22.3	30	
		神戸港	15 年度	3 連装	15.8	14.8	87.7	44	
		石巻港	15 年度	3 連装	14.2	7.9	93.7	45	

注：水深、流れは、濁り発生原単位現地調査における調査地点の平均値を示す。
 取り扱い土砂の性状は、粘土・シルト分の割合(%)を示す。
 出典は、「資料-12 参考文献(12-1)」の番号を示す。
 土砂投入工(捨石工)の土質性状は、付着土砂の性状を示す。